

## 1 結核集団感染の定義

同一の感染源から、2家族以上にまたがり、20人以上の感染者が確認された場合（発病者1人は、6人の感染者として感染者数を計算する。）をいう。

※ 厚生労働省健康局結核感染症課長通知「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第17条に規定する健康診断の取扱いについて」より

## 2 集団感染発生事例件数

	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
全国	48	31	40	72	53	44	46	40	43	27
再掲)北海道	3	1	3	1	1	0	3	2	1	0
再掲)札幌市	3	0	0	0	0	0	3	1	0	0

H30.12.28 厚生労働省公表資料「結核集団感染事例一覧(H30.3.31時点)」より

## 3 結核患者数の推移

		H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
新規結核 登録患者数	全国	24,760	24,170	23,261	22,681	21,283	20,495	19,615	18,280	17,625	16,789
	札幌市	209	239	225	195	180	188	190	183	160	158
罹患率 (人口10万対)	全国	19.4	19.0	18.2	17.7	16.7	16.1	15.4	14.4	13.9	13.3
	札幌市	11.0	12.6	11.9	10.2	9.3	9.7	9.8	9.4	8.2	8.0

厚生労働省 結核登録者情報調査年報より

## 4 結核とは

結核は、結核菌の空気感染により引き起こされる「感染症」です。

### (1) 症状

結核の症状は、カゼによく似ています。

次のような症状が2週間以上続いたら、医師の診察を受けましょう。

咳 痰 発熱 胸痛 やせる だるい

### (2) 感染経路

結核が進行した患者さんが咳やくしゃみをする時、飛沫（しぶき）と一緒に周囲に結核菌が飛び散り、その空気を周囲の人が吸い込む事により感染します。

結核は空気感染のため、患者さんの使われた物や食べ物、洋服等に付着して次の方に感染させることはありません。また、特別に消毒なども必要ありません。

### (3) 「感染」と「発病」は違います

感染の段階では結核を発病したわけではなく、結核菌を人にうつす事はありません。しかし免疫の力だけでは結核菌を完全に殺すことができず、体内で眠り続けます。やがて、結核菌が体の中で活動し始め、病巣ができることを「発病」といいます。

通常は、免疫の働きで結核菌の増殖が抑えられるため、感染していても、生涯を通して8～9割の人は結核を発病しません。ただし、病気などで免疫力が低下すると、結核を発病する可能性があります。

感染から発病までは数ヶ月から数年かかります。感染から数十年後に発病する（若い頃に感染し、高齢になって持病や加齢等による免疫力の低下により発病する）ということもあります。

また、発病した全ての人が、人に結核をうつすわけではありません。大量の結核菌を体外に排出している高感染性の発病者、微量ではあるが結核菌を排出している低感染性の発病者、菌を排出していない感染性のない発病者がいます。感染性は喀痰等の中にどのくらい生きて結核菌がいるかにより判断されます。

## 5 検査項目

健康診断の検査内容は、IGRA（イグラ）検査、胸部エックス線検査、喀痰検査等により行います。

### (1) IGRA 検査

結核に感染していないかどうかを確認するための血液検査。

結核に感染してから、反応が正しく現れるのは2～3か月後となる。

いつ感染したかはわからない。

### (2) 胸部エックス線検査

結核を発病していないかどうか確認するための検査。

胸部エックス線所見で発病の可能性がある場合、喀痰検査などを追加実施することにより結核の確定診断を行う。